

令和7年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
75	川崎市立西有馬小学校	丸尾 明彦

学校教育目標	今年度の重点目標
「夢と力を育み 笑顔が輝く子どもの育成をめざして」 ・考える子ども(知) ・心豊かな子ども(徳) ・たくましい子ども(心と体)	1 子どもたちが安心して、いきいきと自主的な活動ができる学校環境づくり 2 人権尊重教育を基盤とした教育の実践 3 基礎・基本の定着と一人ひとりの教育的ニーズにあった学習指導 4 命を大切にし、生涯の健康づくりができる子どもの育成

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 自主的活動	・進んで学習や係活動等に取り組む力を育成する。 ・集団の一員として活動する力やリーダーシップを発揮する力を育成する。 ・自分の考えをもち他者との関わりを通して共に課題を解決していこうとする力を育成する。	・異学年交流で、ペアの学年と作業を一緒に行うなどして交流を深めた。 ・高学年が委員会活動でスタンプラリーや集会を実施し、異学年がふれあう機会を増やした。 ・運動会では、高学年が準備や進行を担い、係の活動を通して運動会を盛り上げた。	・教職員間での連携をより強め、子どもたちの思いをできる限り実現することができるようにする。 ・他者との関わりをもつ手段の一つとして、GIGA端末を効果的に利用して交流することができるような活動を工夫する。
2 人権尊重・児童理解	・多様性を認め他者と協力して皆が気持ちよく学校生活を送ることができる環境づくりに努める。 ・いじめ、不登校、問題行動等の未然防止と早期発見、適切な対応に努める。 ・子どもたちがよりよい学校生活を送ることができるよう関係機関とも連携した支援を行う。	・ネットを利用する児童が増加しておりオンラインゲームやSNS関連の問題が発生している。 ・SOS出し方・受け止め方教育の研修を行い、授業の中で、子どもたちが自分の気持ちを伝えることの大切さや必要性を考える機会を設けた。	・情報モラル教育を計画的に実施し、継続的に指導していく。ネット利用に関しては、保護者と協力して、子どもたちが適切に利用することができるようにする。 ・かわさき共生＊共育プログラム、効果測定をより効果的に実施し、定着を図る。
3 学力向上	・学習内容の基礎・基本を定着させるための取組と子どもたち一人ひとりの特性に合わせた教育の充実を図る。 ・体験や経験をいかし、「分かった」「できた」という達成感と、「もっと学びたい」という意欲的な学習活動ができるように努める。 ・学習のめあてを明確にし、子どもたちが主体的に学ぶことができるような手立てを考える。	・校内研究で学習状況調査の結果を活用し、教員と子どもが目標を共有することや、一人一人に合った学習方法を模索した。 ・授業のユニバーサルデザイン化については、各学級の子どもの実態に応じて教員ができる範囲で行ってきた。 ・子どもたちの学びをより高めるために、体験学習等の時期や効果を考えて取り組んだ。	・授業中、友達の考えに触れる機会や自分の意見を発信する機会を設けることで、互いの考えや意見を認め合い、協働的に学び合う場を保証していく。 ・GIGA端末の活用を推進していくと同時に、子どもたちの情報活用能力や情報モラル等を高めることができるようにする。
4 安全安心・健康	・体と心の健康、災害等から自分を守るために必要な知識と技能の習得と、実践していく力を育成する ・保護者、地域と連携した安全安心な学校生活の維持に努める ・清掃活動等みんなが気持ちよく生活できる環境づくりを自主的に行うことができるよう支援する。	・防災、防犯のためのグッズを実際に使って教職員研修を行った。 ・休み時間、子どもたちの運動の機会を確保するため、教員が見守る中で校庭を利用することができるようにした。 ・栄養職員が食育スライドを毎日作成し、子どもたちが見ることができるようにした。	・都度、安全管理を確認し、災害時の避難経路等を臨機応変に変更するなど子どもたちの安全確保に努める。 ・今後も、健康上配慮を要する子どもたちが安全安心な学校生活を送ることができるよう、保護者や関係機関と連携して適切な対応を継続していく。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
・登下校時子どもたちの元気な姿が見られてうれしい。ふるさと公園で花壇の土づくりをしていた時、子どもたちが「何か手伝います」と声をかけてくれた。 ・3年生が1年を通して梨の学習をしている。その時その時の見学でしか見られないものを見て感じてほしい。 ・事故がないように安全第一で取り組んでほしい。 ・地域の大人として、子どもたちとの関係をさらに深めていきたい。	・運動会を平日3部制から土曜日全校開催にした。子どもたち、保護者、地域の方々に小学校6年間でどのように成長していくのかを見てもらうことができた。 ・子ども一人一人に適した学習の仕方があることを教員が理解し、柔軟に対応することができるようにしていきたい。 ・SNSやオンラインゲームを利用する際のルールやマナーを、子どもたちだけでなく、保護者とも考える機会が必要になってきている。効果的な方法を模索したい。